

## 第二期郡山市公共施設個別施設計画（案）にお寄せいただいた御意見と本市の考え方

受付番号	御意見（概要）	本市の考え方
1	<p>湖南町の湖畔の村の自然豊かな環境の中での宿泊施設が気に入っています。格安なところは魅力の一つですし、施設も管理がゆき届いて清潔感があるところもよいです。夏は湖水遊び、秋は稲穂の香りに癒されます。可能ならせっかくの遊具がグルグル巻きのままですので、何とか再び利用できればと思います。あの自然の中の、静かな施設をどうぞ維持していただきますよう宜しくお願いします。</p>	<p>郡山市公共施設等総合管理計画の改訂にあたり、人口減少が進む中、全ての公共施設を維持することが困難であることが改めて明らかになったことから、第二期公共施設個別施設計画では、利用率や代替可能性等の観点から全ての施設について総合評価を行ったところです。</p> <p>少年湖畔の村の総合評価については、近隣に国、県が運営する同類の施設があるほか、民間事業者により同等又は類似のサービスの提供が可能であることから、サービスとしては行政から民間への実施主体の変更を含め廃止を検討し、建物は譲渡等を検討することとしました。</p> <p>具体的な検討にあたっては、地域や青少年団体等との意見交換などを通じてご意見を把握し、協議を重ねながら丁寧に進めてまいります。</p> <p>また、いただいたご意見については、関係部局と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。</p>

2

郡山市湖南町が誇る「湖南七浜」は、現在「湖南七浜滞在環境等上質化協議会」を中心に、持続可能な観光と環境整備が進められていると伺っています。しかし、その活動の核となりそうな「湖畔の村」の廃止検討に対し、周囲の友人や地域の人と話をし、心配しています。指定管理者であるホールアース自然学校様による積極的な保全活動は、ラムサール条約登録地である猪苗代湖の豊かな自然を次世代へ繋ぐ「生きた教育の場」として、今、少しずつ実を結び始めています。単なる観光地の整備に留まらず、以下の3つの観点から「湖畔の村」の存続と活用を強く願っています。

1. 湖南町における「唯一の子どもの居場所」の保護  
現在、湖南町内では遊具の撤去が進み、現在ひとつも遊具や公園がない状態です。自然豊かな場所にいるのに、郡山市街地に来て、安心して見守れる公園で遊ぶという状況はとっても残念で。子どもたちが心身を健やかに育める場所が極めて限られているなあと感じています。乳幼児期から学童期に必要な五感を使った遊びや粗大運動とよばれる全身運動ができて安心して乳幼児学童期の子ども達を見守れる拠点は、この湖畔の村をおいて他にありません。冬の雪遊びを含め、四季折々の体験を通じて郷土愛を育む場を失うことは、地域コミュニティの衰退に直結してしまうとも懸念しています。

2. 交流人口から「関係人口」への深化  
昨年、市街地から宿泊や体育館利用に訪れる方々が増加したことは、ここが単なる立ち寄り先ではなく、目的地というデスティネーションとして機能し始めた証かなと思っています。自然体験を通じた教育活動は、郡山市の魅力を外へ発信するだけでなく、何度も足を運ぶファンである関係人口を創出しており、これは市が推進する上質化事業とも合致するのではないのでしょうか。

3. 持続可能な環境保全の拠点  
環境保全は、知識だけでなく「体験」が伴って初めて自分事になります。昨年は、湖南小中学校のPTA行事や中野保育所の行事にも活用され、地域の憩いの場へと進化を遂げている最中のこの場所を廃止することは、これまでの歩みを止めるだけでなく、未来の保全の担い手を育てる機会を自ら手放すことになりかねません。湖畔の村は、湖南町の自然・教育・福祉が交差する唯一無二の拠点です。施設の廃止ではなく、ホールアース様の自然保全活動や教育観点の専門性と郡山市のビジョンを掛け合わせ、さらに強力な推進力として活用していく道を、ぜひ再考していただけないでしょうか。よろしくお願い致します。

郡山市公共施設等総合管理計画の改訂にあたり、人口減少が進む中、全ての公共施設を維持することが困難であることが改めて明らかになったことから、第二期公共施設個別施設計画では、利用率や代替可能性等の観点から全ての施設について総合評価を行ったところです。

少年湖畔の村は、自然環境の中における集団宿泊訓練及び野外活動を通じて心身ともに健全な少年の育成を図ることを目的とした施設です。同種の施設として、猪苗代湖周辺には国立磐梯青少年交流の家、郡山市内には福島県立郡山自然の家があります。また、一般向けの宿泊施設については民間事業者により提供可能なサービスであることから、「サービス廃止」という総合評価をいたしました。

総合評価を踏まえた今後の具体的な検討にあたっては、まちづくり、福祉、交通、防災などの各種政策と連携しながら、将来の需要と供給の調和を見据えつつ、地域や青少年団体等との意見交換などを通じてご意見を把握し、協議を重ねながら丁寧に検討を進めてまいります。

また、いただいたご意見については、関係部局と共有し、今後の施策の参考とさせていただきます。

3

郡山市の公共施設のあり方について、現場で社会教育施設の運営に関わる一人の市民として意見を述べさせていただきます。計画案では、利用率や代替性、効率性といった指標を基に、人口減少を前提とした施設の廃止やサービス終了が検討されています。人口動態を踏まえた検討自体が必要であることは理解できます。一方で、公共施設の必要性や存続性を判断する際「現在用いられている指標だけが唯一のものさしなのか」という点については、改めて考える必要があるのではないのでしょうか。人口が減少していく局面においても、地域で育つ子どもたちや若い世代は確かに存在し、そうした人たちこそが、公共施設の縮小や喪失による影響を最も直接的に受けます。むしろ人口密集地以上に、代替えの効いた既存の民間施設も数少ないことが挙げられ、さらに今後新たな進出の可能性も人口密集地に比すると限定的であると考えます。公共施設は、単に「利用されるかどうか」で測られる存在ではなく、地域に暮らす人々の関係性をつなぎ、学び・見守り・支え合いを通じて、将来世代が地域や社会と関わり続けるための土台を形づくってきました。また、近年、社会全体として、自助・共助・公助のうち、共助の機能が弱まりつつあることが指摘されています。地域の公共施設は、そうした共助を育ていく「場」として設置され、一定の機能果たし続け、見守りや予防、早期の気づきといった形で、結果的に行政対応や支援に要するコストを下支えしてきた側面があると感じています。こうした拠点が失われることで、共助によって吸収されていた課題が顕在化し、より直接的な公助（行政対応）を必要とする場面が増えていく可能性も否定できません。加えて、災害時の避難や連携、初動対応の弱体化、人の関与が薄れることによる農地や自然環境、地域の風景の維持の困難さ、熊をはじめとする野生動物との関係悪化など、複合的な課題が同時に進行することも懸念されます。今回、経済合理性を重視した判断として施設廃止が検討されている一方で、こうした課題が加速した場合に必要な防災、環境管理、獣害対策、さらには公助の増大に要する将来的な費用や行政負担についても、併せて検討されているのかという点が気に掛かります。短期的な維持費の削減が、中長期的には別の分野でより大きなコストとして市民に跳ね返ってくる可能性も十分に考えられるのではないのでしょうか。もし、こうした視点や指標を十分に考慮しないまま、不可逆的な判断がなされるとすれば、その結果生じる影響と責任は、現在こ

郡山市公共施設等総合管理計画の改訂にあたり、人口減少が進む中、全ての公共施設を維持することが困難であることが改めて明らかになったことから、第二期公共施設個別施設計画では、利用率や代替可能性等の観点から全ての施設について総合評価を行ったところです。

総合評価を踏まえた今後の具体的な検討にあたっては、いただいたご意見も踏まえつつ、施設利用者及び未利用者を含む多くの市民の皆様からご意見をいただき、協議を重ねながら丁寧に検討を進めてまいります。

なお、検討の中で、公共施設が担ってきた機能を維持するために従来型の公共施設が本当に必要不可欠なのかを含め、国・県・他自治体との連携や民間活力、代替サービスの活用などにより、公共施設の建物にこだわらず、まちづくり、福祉、交通、防災などの各種政策と連携しながら、将来の需要と供給の調和を見据えたエリアマネジメントを推進し、地域課題の解決を目指してまいります。

	<p>の決定を行おうとしている郡山市に帰するものになるのではないかと危惧しています。人口規模や短期的な効率性だけでなく、将来世代への影響、地域の安全、共助の維持、公助コストの抑制、環境・景観の保全といった観点も含め、複数のものさしによる丁寧な再検討を求めます。</p>	
<p>4</p>	<p>湖南町に在住しています。地域の中で大人数が宿泊できる施設は、現在「少年湖畔の村」しかありません。近隣に代替可能な施設があるとして廃止を検討しているとの記述がありました。地域に住む者にとって、それらは決して代替がきく存在ではありません。この施設が廃止されることで、観光や教育の分野における一つの可能性、そして地域にとっての灯火が失われてしまうことを、黙って見過ごすことはできません。町場から離れた地域ほど、定量的な評価を基準に機能が削られ、結果としてますます住みづらくなっていくように感じています。地域の少子高齢化が進んでいる現状や、市政において予算削減が求められていることは理解しています。しかし、「廃止」という方針を早急に打ち出す前に、まずは見直せる点があるのではないのでしょうか。たとえば、長年据え置かれてきた、安すぎる利用料金の改定から始めることも一つの方法だと思います。すべてを市が負担するという発想にとどまらず、受益者負担とのバランスを取りながら、施設のあり方や全体方針を見直すことが先決ではないのでしょうか。廃止を決断する前に、検討できる余地はまだ多く残されていると、私は強く感じています。</p>	<p>郡山市公共施設等総合管理計画の改訂にあたり、人口減少が進む中、全ての公共施設を維持することが困難であることが改めて明らかになったことから、第二期公共施設個別施設計画では、利用率や代替可能性等の観点から全ての施設について総合評価を行ったところです。</p> <p>少年湖畔の村は、自然環境の中における集団宿泊訓練及び野外活動を通じて心身ともに健全な少年の育成を図ることを目的とした施設です。同種の施設として、猪苗代湖周辺には国立磐梯青少年交流の家、郡山市内には福島県立郡山自然の家があります。また、一般向けの宿泊施設については民間事業者により提供可能なサービスであることから、「サービス廃止」という総合評価をいたしました。</p> <p>総合評価を踏まえた今後の具体的な検討にあたっては、少年湖畔の村が担ってきた役割を踏まえ、まちづくり、福祉、交通、防災などの各種政策と連携しながら、将来の需要と供給の調和を見据えつつ、地域や青少年団体等との意見交換などを通じてご意見を把握し、協議を重ねながら丁寧に検討を進めてまいります。</p>

		<p>また、利用料金の改定につきましては、受益と負担の公平性を図るため、令和8年郡山市議会3月定例会に市全体の公共施設等の使用料見直しの条例案を上程しており、令和9年4月からの新料金施行に向けて取組を進めております。</p>
--	--	--